

第1回 長浜市学校園の適正規模・適正配置検討委員会 要点録

日 時 令和6年5月20日(月)14時30分～15時46分
場 所 長浜市役所 5-B 会議室
出席者 (委員) 水本座長、大橋副座長、西川委員、森委員、中川委員、
水谷委員、福永委員、辰野委員、文室委員
(事務局) 織田教育長、内藤部長、山岡次長、高山次長、為永管理監、
稲葉課長代理、成田室長、廣部副参事、藤田指導員
欠席者 西田委員、塚田委員、喜田委員

1. 開会 (14時30分)

<織田教育長あいさつ>

本市の子ども人口は減少を続けており、今後、クラス替えができない規模の学校や複式学級が存在する規模の学校が増えていくことが予想されている。

さらに、少子化が一層進むと予測される中、義務教育の機会均等や水準の維持向上の観点から、学校の小規模化に伴う諸問題への対応は、将来にわたって継続的に検討していかなければならない重要な課題となってきた。

また、就学前については、核家族化や共働き世帯の増加に伴い、低年齢から、かつ長時間の保育ニーズが高まっている。このようなニーズを反映するとともに、一定規模の集団生活の中で子どもたちを育むことが重要になる。

このような状況から、長浜市の学校園における規模の適正化や将来を見据えた適正配置のあり方、少子化に対応した活力ある学校園づくりのあり方などを踏まえた本市の基本方針を策定すべき時であると思っている。

将来にわたり、子どもたちに生きる力、真の学力を育む教育をどのように保障していくのか、学校や園の適正規模、適正配置はどうあるべきなのかについてしっかりと検討していくために、本検討委員会の場で皆様からの助言やご意見をお伺いし、基本方針策定にあたっての議論を深めてまいりたいと考えている。

2. 自己紹介(14時33分)

<欠席者の報告>

3. 本検討委員会の趣旨説明(14時37分)

<事務局説明> 開催要領に沿って説明

4. 座長、副座長選出(14 時 41 分)

事務局案を承認された。

座長 水本委員、副座長 大橋委員

5. 議題

(1)長浜市の人口動向について(14 時 43 分)

(2)学校園をめぐる現状について

①小学校・中学校・義務教育学校

②幼稚園・保育園・認定こども園

<①②事務局一括説明資料>

<質疑応答>

特になし

(3)意見交換(15 時 14 分)

・小規模校は 20 人前後で、手厚く指導され、子どもたちに目が行き届きやすい利点がある反面、大規模校と比べると、人にもまれていないところがあり、中学校や高校に進学し、もっと人が多くなっていった時にどうなるのだろうと心配することもある。

子どもたちに将来どのような環境が良いのかを視点に置きながら議論していけるといい。

・小規模校の子どもたちは、人間関係が小学校の間で固定されているため、人間関係からなかなか逃れられないと感じる。その子たちが中学校に進学すると、人と触れ合えて楽しいという感想が出てくるので、人間関係の面から言うと、一定の規模があった方がよい。ただ、地域の方々の思いや、学校に対する願いなども強く、非常に熱心な地域なので、地域の方のご意見なども聞いていかないといけない。

・30 人ぐらいの学校であったが、統合して 200 人ぐらいになった時、1つになった良さがあり、保護者からも良かったという声があった。ただ、学校運営協議会や民生委員などいろいろな方とお話すると、ふるさとの学校がなくなることは本当に慎重に考えていかなければならない。

・3歳以上の保育料無償化をきっかけに、幼稚園から保育園や認定こども園にかなりの子どもたちが流れていることを実感している。乳児も増えている傾向がある。認定こども園の長時部を見ると、就労されている保護者だけではなく、お家の方の疾病や育児能力の低下により、早い段階から子どもを預かっているという現状もある。子どもの育ちの面からは、これも大事なことだと感じる。

・小さな園でのアットホームな環境もすごく大事と思う反面、大きな規模のところで、たくさ

んの先生、たくさんの子どもたちと一緒に、のびのびと過ごす魅力もあるし、本当に一長一短だと考えていた。同じ長浜市で地域差がこんなにもあってもいいものなのか、本当に考えさせられる。

幼児期に大規模なところでたくさんの子どもたちにもまれ、その後小規模な小学校に行く子もいるなど、住んでいるところで違ってくることを、どうしていったらいいのか、すごく考えている。

- ・データを見て思ったのは、やっぱり社会的に事情があり少子化が起きていて、目先だけの対策を打っても、追いつかない感じを持っている。今まで小学校や幼稚園が合併して少なくなっているが、まだそれが加速し、公立だけじゃなく、私立がそういった役割を担う比率が増えてくるのではないか。

- ・人口はもちろん減っていると思っていたが、こんなに減っているのかと驚いている。大きい学校で切磋琢磨して生活した方が将来的にはいいのではないか。就学前については、大きな園の保護者から小さな園に通わせたいと聞くこともあったが、結論的には、今の時代では多くの子どもたちに囲まれて人間性を高めていくような方針で進むべきだと感じた。

- ・資料 11 を見て、改めて、小学校、中学校の規模が偏在している。今回議論になるのは旧長浜以外になると思うが、いろいろな地域のそれぞれの皆さんの思いがあろうと思う。地域の方々のご意向や保護者の方々の思いも踏まえた上で、いろいろな形でコンセンサスを得ながら進めていかないと、ご理解をいただけないような気がする。

人口減少を前提にしながらも、子どもたちにとってどんな教育がふさわしいのか、望ましいのか、議論をまとめていくことになると思う。

決して、私は大規模化することがいいとは思っていない。小規模校であっても、工夫すれば子どもたちにとって素晴らしい教育をすることができる。小規模校を残しながらも、いろいろな工夫を凝らしながら子どもたちに、社会性につけることもできると思うので、複合的に考えていければと思う。

- ・現状、児童生徒数がすごく少なくなっている学校、過小規模校の現状を見たい。

- ・できれば学校評価結果なども利用して、できるだけデータをたくさん得たい。これが何パーセントとか、テストの点数で何点とかもあるが、やっぱり皆さん1人1人の思い、住民の皆さん、子どもたちや先生方の思いみたいなことも、できるだけ何らかの形で吸い上げて議論を進めたいと思っている。

行政的に色々と調査をされているものもできるだけ集約したい。皆さんで考える材料に

したい。

教育学的に望ましい規模を問われたりするが、学問的にその答えはないと言うしかない。どういう子どもたちを育てたいのか、どういう力をつけさせたいのか等、教育目標によるとしか言いようがない。小規模校の方がいいことも、大規模校の方がいいこともある。どういう力をつけたくて、どういう規模にするのか、そこでの教育の工夫もある。どのような工夫ができるかは資源による。長浜市にどのような教育的資源があって、どのように使うことができるのかにもよる。小さな学校の現状を見るのも大事で、豊かな情報、データをもって議論を進められたらと思う。

- ・学校評価の項目から何を持ってきたらいいのだろう。
- ・保護者がどのように評価されているか、その背後には園や学校の規模も含めた要因があるだろう。それぞれの学校園の目標をどれくらい達成できているのかを確かめる意味で学校評価をしていると思うが、それが規模によって上手くできているのかを考える材料になると思う。この規模だからこういう評価が高いこともあると思う。直接規模に関わる質問でなく、長浜市の学校園の教育の現状をみんなで共有、把握したうえで議論していくため、可能な範囲で提供していただきたい。
- ・「どんなことを学校に期待していますか」という選択項目は参考になるかもしれない。

- ・聞き取りをされるのであれば、地域で、実際に生活しておられる方々、特に自治会長や地域づくり協議会の役員からも意見を聞いた方がよい。学校は学校だけ成り立っていないくて、地域社会とともに学校がある。今後その学校がなくなるということになると、地方にとってはこのアイデンティティがなくなってしまうので、その辺りも踏まえて、地域の方々のご意見もお聞きした方がよい。

(4)その他(15 時 41 分)

- ・次回第2回会議は、6月 17 日(月)視察
- ・委員への連絡方法について

6. 閉会(15 時 45 分)

＜内藤教育部長あいさつ＞

市の抱える課題というのは非常に重く、皆様からご意見を頂戴して、より良い学校の配置、規模等を決めていけたらと考えている。

表向きには今の少子化という部分があるけれども、本音を言うと、子どもだけが減っているわけではなく、その学校に勤められる先生方もかなり少なくなっている。

また、長浜市は広域を合併し、今 35 の小中学校、33 の園があって、施設に対してもかなりの管理運営費がかかっている状況もある。

こうした中で、いかに子どもたちにとって、より良い環境を作っていくことが教育委員会に与えられた使命だと考えている。

今後の会議で皆様から様々なご意見を頂戴したいので、よろしくお願いしたい。